

亀久橋

橋梁形式：一径間ワーレン鋼構橋
架設年次：昭和4年12月
所在地：江東区平野二丁目から
冬木間仙台堀川に架かる
橋長：34.2m
幅員：17.7m
指定：江東区都市景観重要建造物



現在の様子



現在の様子



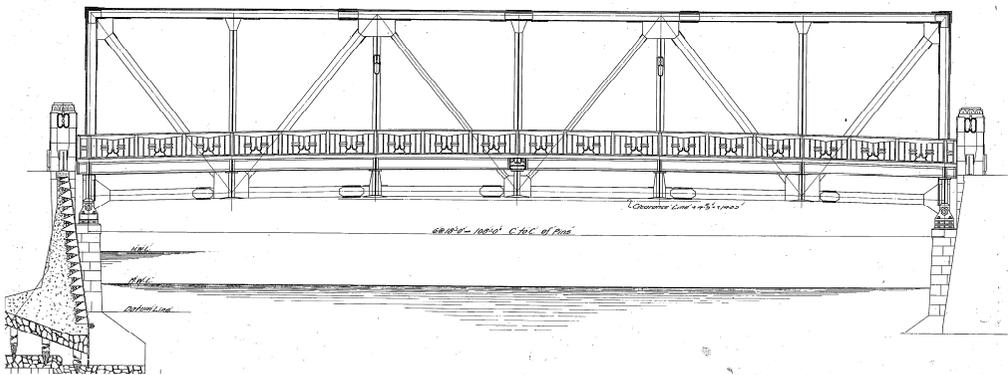
昭和53年撮影

亀久橋は、大正12年に発生した関東大震災の復興事業の一環として架けられた「震災復興橋梁」の一つです。

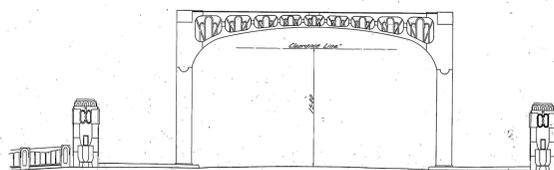
トラスとは、まっすぐな直線部材で構成された骨組構造で、主構造にトラスを用いた橋梁をトラス橋と呼びます。

ワーレントラス（トラス=構）は、トラスの一種で、斜材の傾斜の方向を交互に変えたトラスのことです。James Warrenが発案したことから、この名称で呼ばれています。

側面図



正面図



亀久橋の景観について

垂直的な部材配置が特徴のワーレントラス橋です。トラス斜材の斜めの線が、視覚的構造の安定感をもたらすと同時に、繰り返しの多い心地よいリズム感があります。照明、親柱にも特徴的なデザインが採用されています。



説明板設置工事について

令和5年に関東大震災から100年を迎えるにあたり、過去の記憶や震災復興橋梁の歴史を広く区民に継承し、防災意識の啓発を図るために震災復興橋梁の説明看板を設置しました。

また、亀久橋は江東区都市景観重要建造物に指定されていることもあり、景観に配慮し、人研仕上げとタイル貼りを施しました。タイルは、親柱のスタンドグラスから着想し、クラッシュタイルを使用しています。

